



昭和50年度指定 高指第37号

# (故)立川 善太郎

生年／大正9年 指定技術名／銅器・着色



そうがたかびん「ごひきこい」

## 双型花瓶「五ひき鯉」

父政吉から受け継いだ着色技法を更に発展し高めている。なかでも、溶解寸前まで製品を焼き、焼紋を表現する本焼の着色技法は至高の技といえる。写真の作品は、迎賓館に献上されたものであるが、彫金された泳ぐ鯉を独自の着色技術で微妙な濃淡の変化を付け、気品ある作品に仕上がっている。

昭和49年作

素材・技法／青銅・双型鑄造、煮込み着色

寸法／高さ60cm×幅45cm×奥行45cm

### 〔表彰・受賞歴〕

昭和58年 卓越した技能者（現代の名工）表彰  
昭和60年 黄綬褒章  
昭和61年 高岡市市民功労者表彰  
平成 3年 勲六等瑞宝章  
平成11年 富山新聞社富山風雪賞

### 〔経歴〕

昭和 8年 8代目父政吉に少年期より師事し着色業を修業  
昭和12年 富山県工業試験場の推薦により国立仙台工芸指導所で研修  
昭和32年 高岡着色組合長  
昭和45年 冬季オリンピック聖火台に着色  
昭和49年 神岡達磨大師 迎賓館献上花瓶に着色  
昭和50年 前田利長公像に着色 伝統工芸士に認定  
昭和51年 高岡市伝統工芸産業技術保持者指定  
平成 4年 高岡巧美会会長